

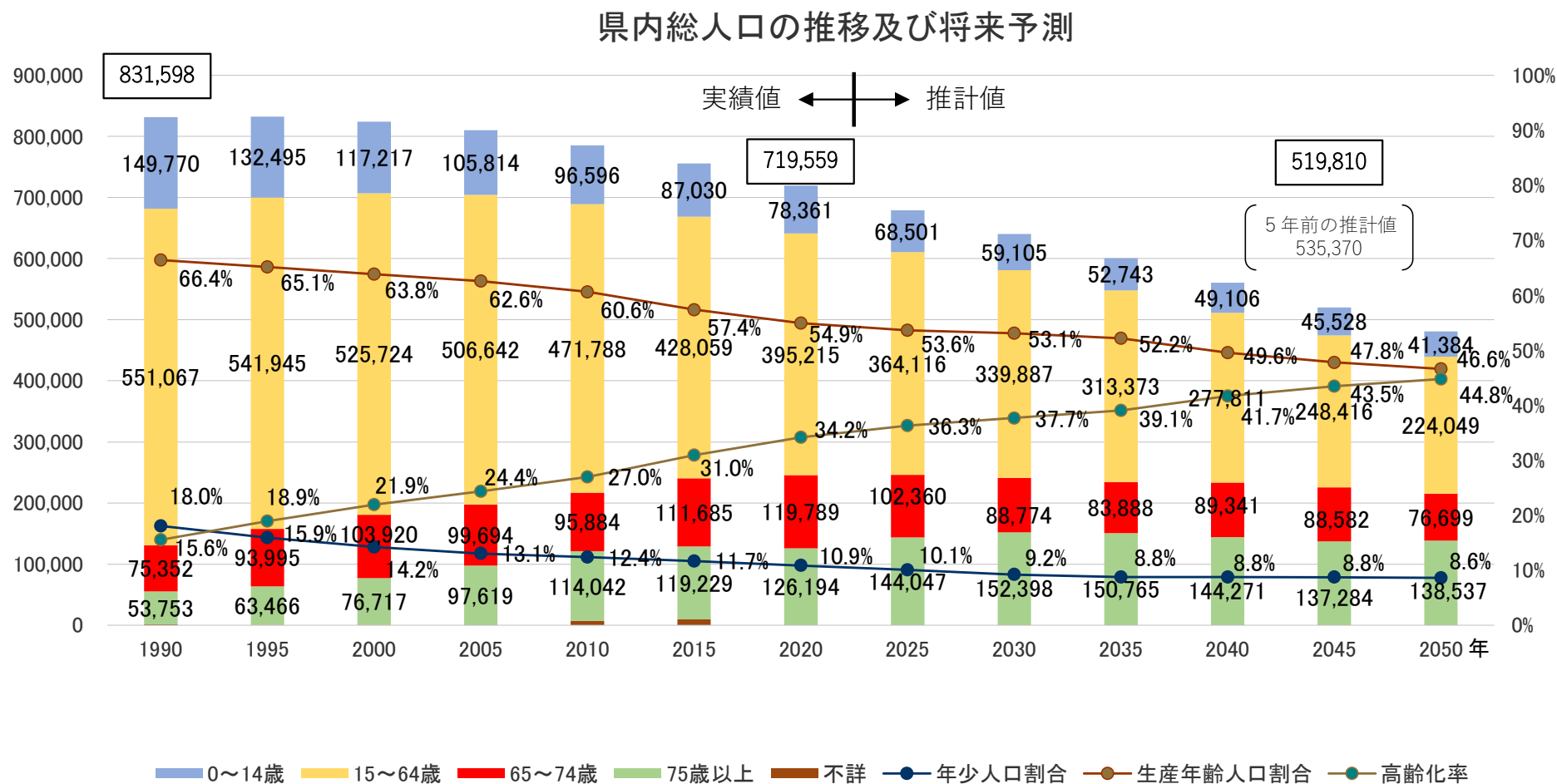
徳島県の住生活を取り巻く状況

(1)人口・世帯・経済の状況	・ ・ ・ ・ ・ 1
(2)住宅ストック等の状況	・ ・ ・ ・ ・ 6

(1) 人口・世帯・経済の状況

○人口の状況

- ・ 人口の減少傾向は続き、2045年には約52万人と、2020年の3/4を下回ると推計されている。
- ・ 少子高齢化も進み、2050年にはおよそ2人に1人が高齢者となると推計されている。

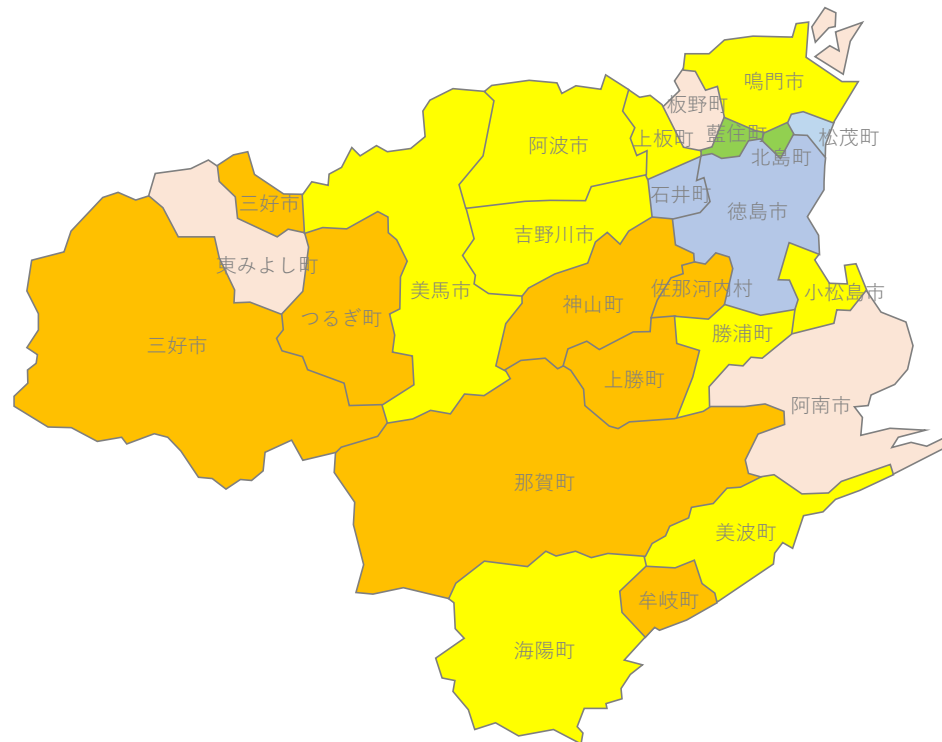


(1) 人口・世帯・経済の状況

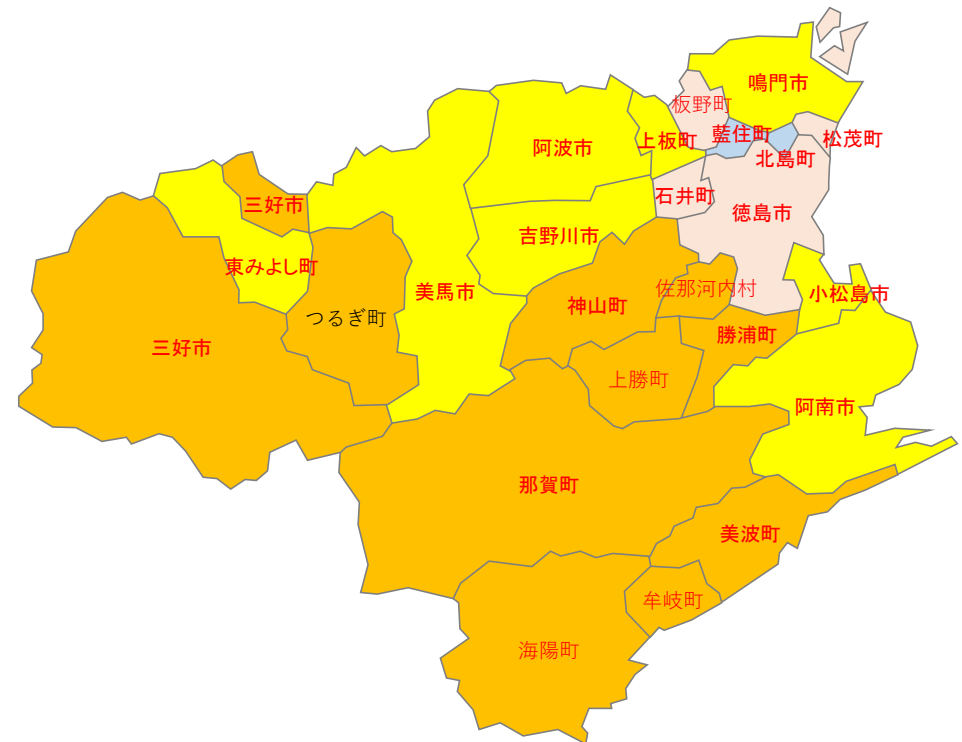
○市町村別の人口増減

- ・ 今後10年間の人口増減は、全市町村において減少すると推計されている。
- ・ つるぎ町を除き、「過去10年間（～2020）の減少率」より「今後10年間の減少率」が大きくなると推計されている。
- ・ 2020年までは増加していた藍住町及び北島町も、今後は減少に転じると推計されている。

過去10年間の人口増減率（2010年→2020年）



今後10年間の人口増減率（2025年→2035年の推計）



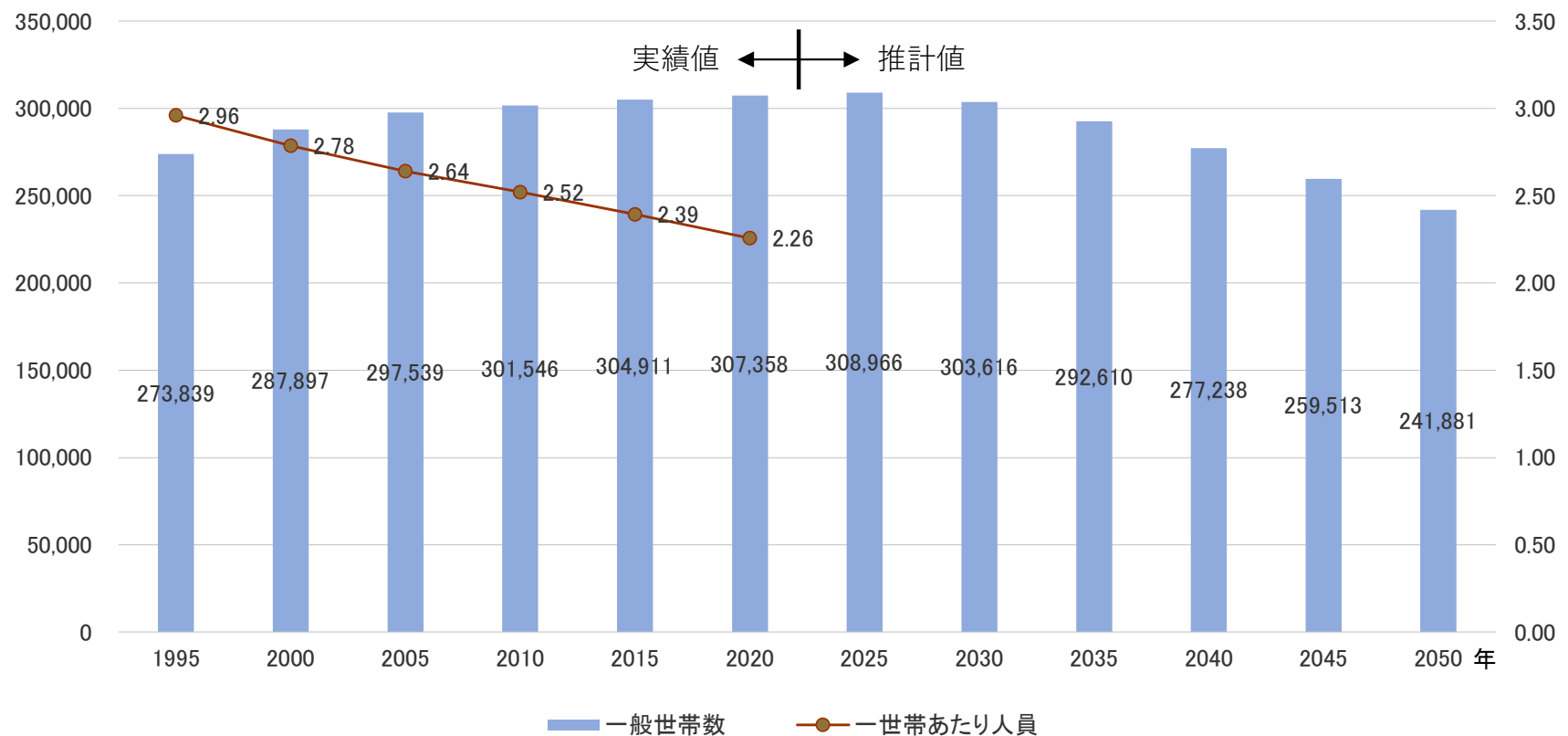
(赤字：今後10年間の増加率<過去10年間の増加率)



○世帯数の状況

- ・ 人口減少下でも世帯数は増加してきたが、今後は世帯数も減少に転じ、2045年には1995年を下回ると推計されている。
- ・ 一世帯あたり人員は減少傾向が続いており、核家族化が進んでいる。

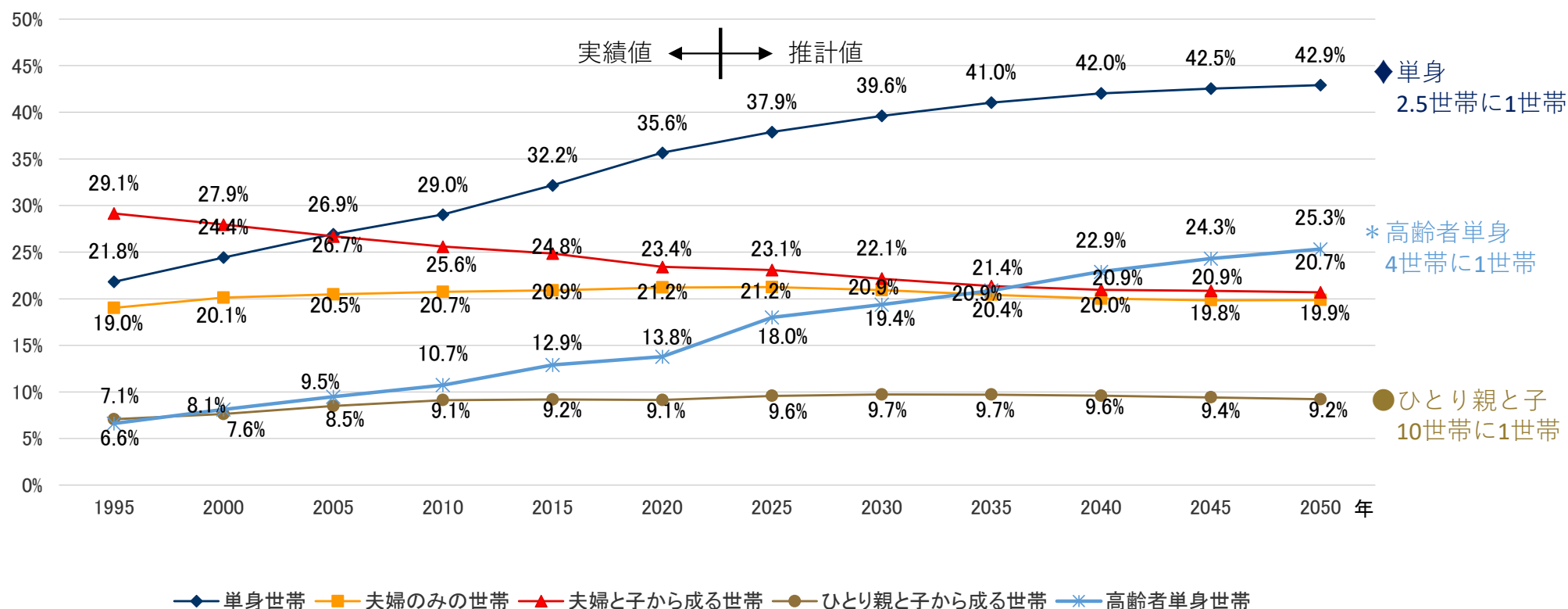
世帯数と世帯当たり世帯人員の推移及び将来予測



○属性別世帯割合の状況

- ・ 単身世帯は増加し、半数に迫る割合を占めると推計されている。
- ・ 高齢者単身世帯割合は2020年から2050年の間でおよそ倍になると推測されている。
- ・ 単身世帯以外の世帯は緩やかに減少していくと推計されている。

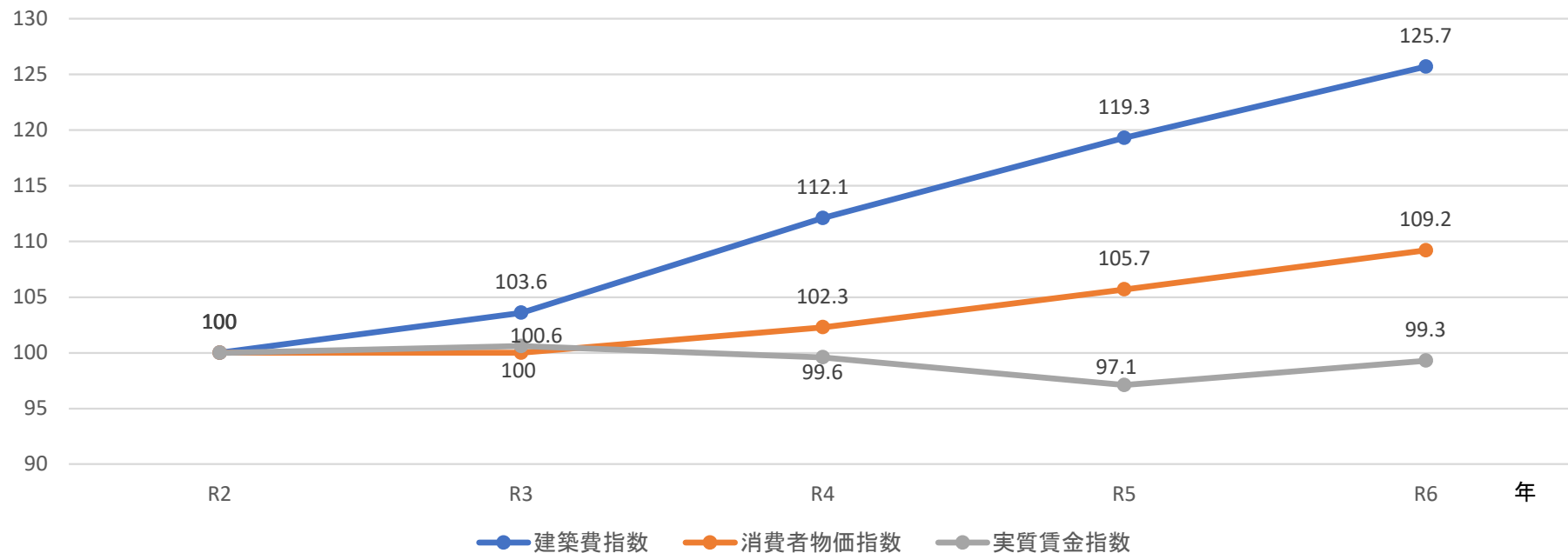
属性別世帯数の推移及び将来予測



○物価・資金の状況

- ・ 実質賃金が100（2020年基準）を下回る中、建築費指数は大幅に上昇し、4年間で25%増加している。
- ・ 建築費指数は消費者物価指数のおよそ3倍の上昇を続けている。

建築費指数(住宅)・消費者物価指数・
実質賃金指数の推移



資料：一般財団法人 建設物価調査会「建設物価 建築費指数」
総務省「消費者物価指数」
厚生労働省：「毎月勤労統計調査」

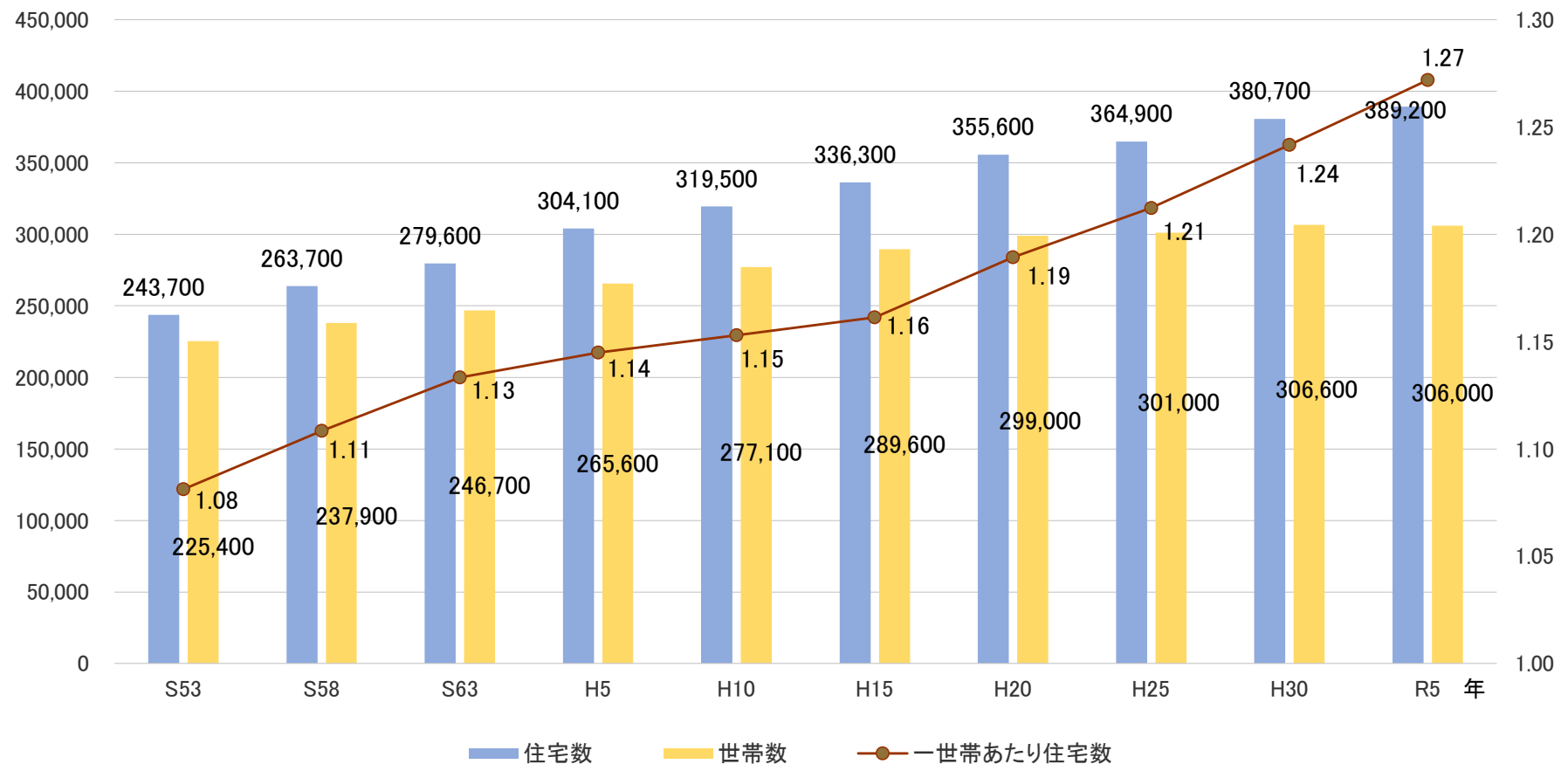
※2020年を100とした指数
※消費者物価指数は「持家の帰属家賃を除く総合」指数（徳島市）
※建築費指数は「住宅の工事原価」指数（高松市）

(2) 住宅ストック等の状況

○住宅数の状況

- ・ 住宅数の増加が、世帯数の増加を上回るペースで続いている。
- ・ 今後は世帯数が減少に転じることが見込まれ、空き家の更なる増加が懸念される。

住宅数と世帯数の推移

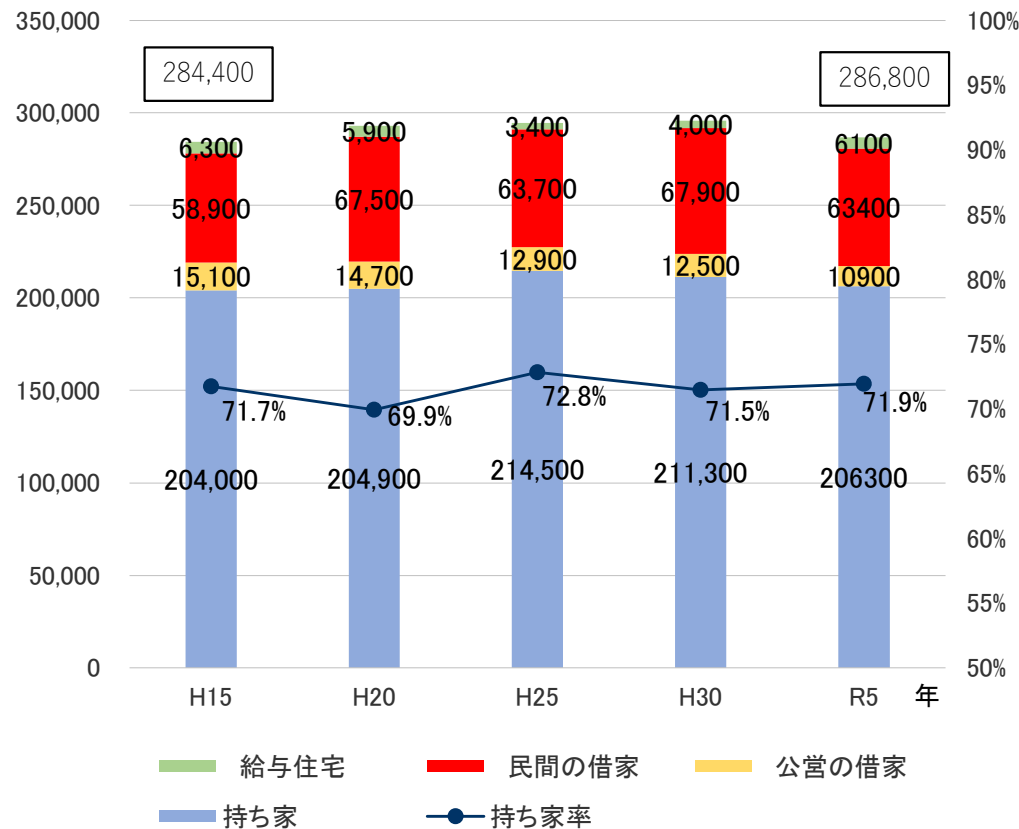


(2) 住宅ストック等の状況

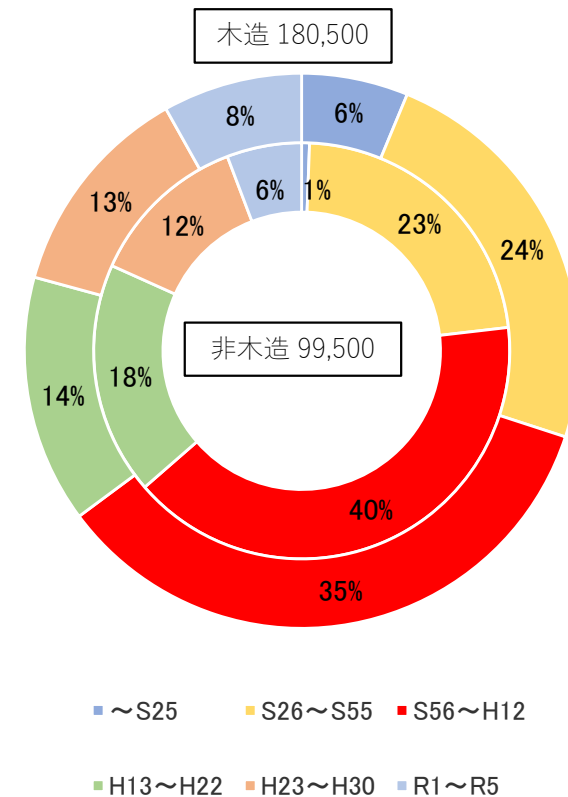
○所有関係別、建築年別、構造別住宅ストックの状況

- ・持ち家率は7割前後で推移している。
- ・構造別で全体の2/3を占める木造住宅で、建設年の古い住宅の割合が高い。

所有関係別住宅数(居住世帯あり)



建築年別・構造別住宅数
(居住世帯あり)

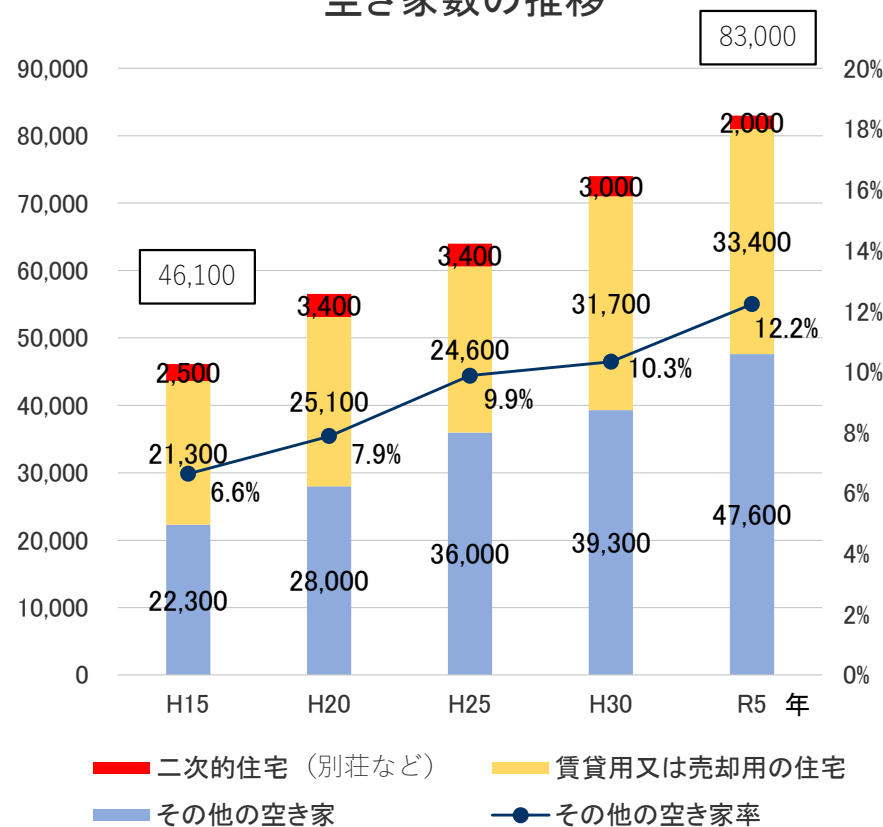


(2) 住宅ストック等の状況

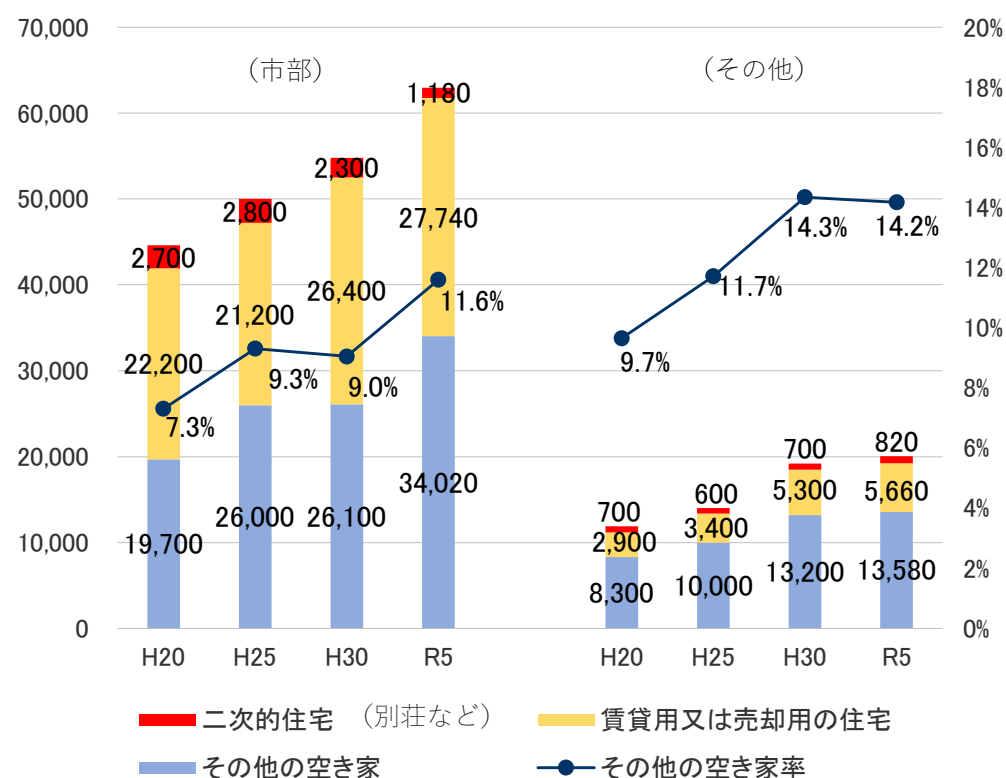
○空き家の状況

- ・ 空き家は増加傾向にあり、特に利用予定のない「その他の空き家」の増加が課題。
- ・ 特に郡部で「その他の空き家」が空き家総数の約7割を占めている。
- ・ 5年前と比較すると、市部での増加が顕著。

空き家数の推移



市部、その他別の空き家数の推移

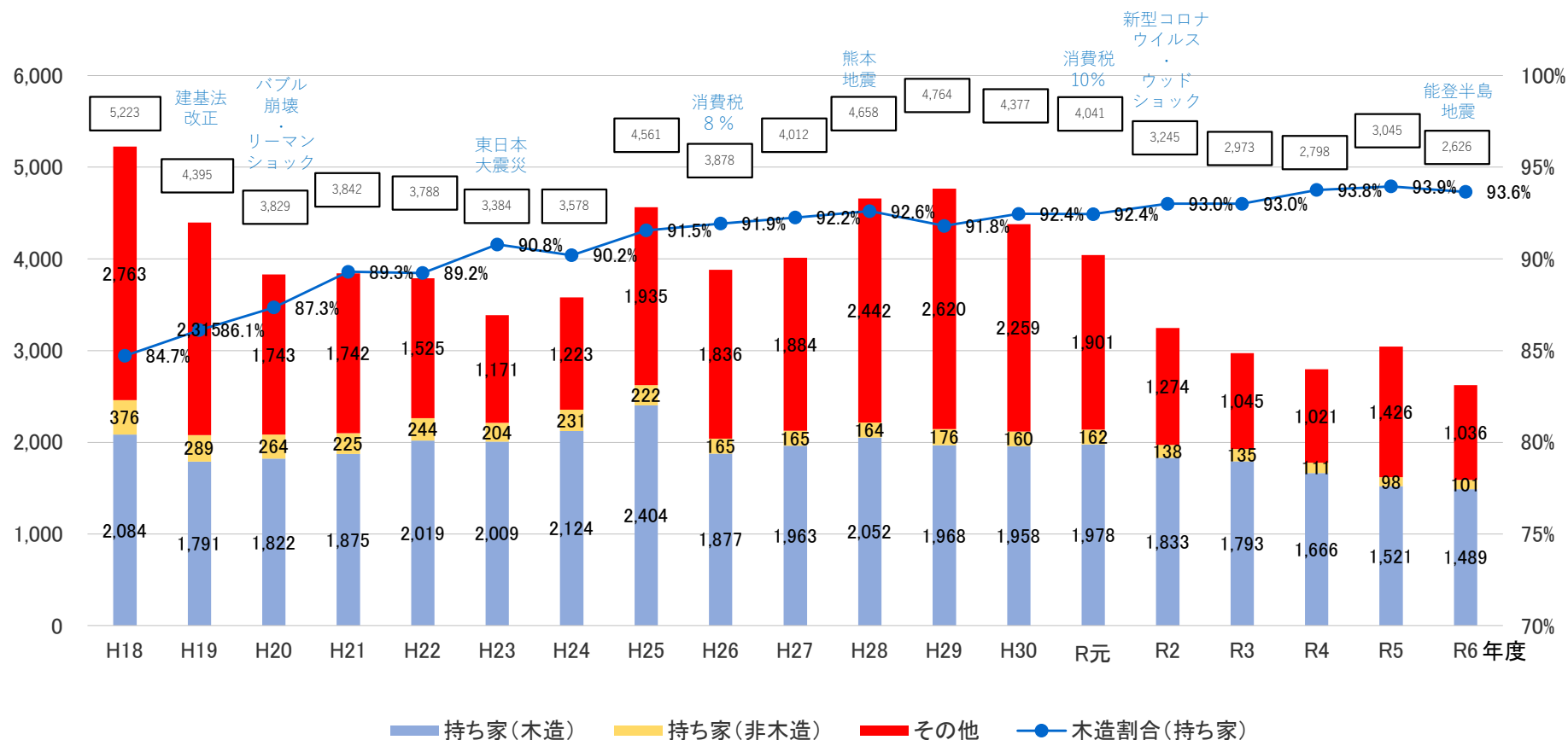


(2) 住宅ストック等の状況

○新設住宅着工戸数の状況

- ・ 令和元年度までは4,000戸/年程度で推移し、令和2年度以降は3,000戸/年程度で推移。
- ・ 持ち家に占める木造の割合は、徐々に上昇傾向にある。

新設着工戸数の推移



資料：住宅着工統計（国土交通省）